

見える世界と見えない世界  
生活と歴史

浅野<sup>よし</sup>介<sup>ひろ</sup>敬(良裕)

ケネディ大統領暗殺事件の未公表の資料が公開されました。膨大な資料のようですが、これまで公開されなかったのは、オズワルド単独犯という公式発表以外に何らかの理由で公開できない事実があったからでしょう。今回もまだ200点以上の資料が公開されていないのは、現在でもなお、公開することによる国家的、社会的影響が大きいからであり、それだけ大きな事件だったと考えられます。

もしこの事件がなかったら歴史はどう変わっていたのか？あるいは変わらなかったのか？歴史的選択とはどういう意味があるのか？

考えてみると過去の歴史の解釈は、時代によって変わってきます。

書かれた歴史は「時の権力者の都合が良いように事象を選択され、解釈されてきた」と言われるように、同じ事実であるはずなのに事実と言われるものでも様々な見解に分かれます。また事実そのものがなかったとも言われることがあります。日中関係や日韓関係に見られるように。

このように歴史には見えない部分が多いですが、同時に現在の生活はその歴史の積み重ねの上に存在しています。

その時には事実を発表することが却って誤解を生み、好ましい結果にならないかもしれません。しかしながら主権を持った国民が知らないならば、政府は自分たちの都合ばかり考え国民のための政策を打たず、国民の幸せにならず世の中は進歩しないことになります。アメリカ等の情報公開法は、このような考えから民主主義の根幹として国民の知る権利を保障していると言われています。

翻って日本の現在の政治状況を見ると、見えないことが多すぎるように思われます。森友、加計問題、衆議院の解散、野党再編、北朝鮮問題、少子高齢化、財政赤字、格差とバブル、経済的発展、原発等様々な問題に対して実際の事実、現状はどうか？将来的な対策は何か？等に対して、問題を先送りしていることが多すぎます。

我々の生活は社会全体の動向に大きく左右されます。大きな変化は突然やってくるように見えます。リーマンショックや戦争のような出来事は、多分一般市民の見える世界では突然やってくることでしょう。実際には見えない世界ではその原因となる要因は成長していくことでしょう。ちょうど見えない地中にある種が発芽し地上に伸びていくように。

現在は、後世の人から見れば、歴史的転換点だったといわれる時期かもしれません。

個人個人の癖や問題が繰り返されるように、歴史は繰り返すと言われます。

個人が問題を起こさないようにするためには、問題を明確に認識し、改善していけばよいように、歴史的な問題を繰り返さないためには、歴史から学び、社会の構成員である個人個人が意識的に社会を形成していく必要があります。

企業活動でも「見える化」が大切だと言われますが、個人も社会も同じで、見えてない世界を見る世界に変えていくことが重要ではないでしょうか。